アカシア俳句会

令和六年　夏季俳句会「句報」　夏の季語を含む作品一～五句

「選句」赤文字：特選

「投句」作品　　作者

円安に値上げ値上げで喘ぐ夏　都　福仁
洗濯が直ぐにカラカラ五月晴れ　都　福仁
平原の彼方に上（のぼる）る雲の峰　都　福仁
路面から熱風上がりかき氷　都　福仁
山の上きらめく夜景夏惜しむ　都　福仁

亘福志　ひとり見る語学講座や夏の月　山家由紀
父の日の花束晴れた昼さがり　山家由紀
亘博志　花の名や樹の名忘るる老いの夏　山家由紀
梅雨のある幸せ樹々を眺めつつ　山家由紀
為政者の拘泥民死す夏の日々　山家由紀

天の川渡るシャトルや富士の宵　戸堂博之
福志恵　鏡には父ソックリの浴衣がけ　戸堂博之
亘由志　打ち明けし父の再婚夕涼み　戸堂博之
秀　念仏をまねて念仏青蛙　戸堂博之
亘由　走り去る少女残す香木下闇　戸堂博之

福　部屋隅に玩具残して走り梅雨　加龍恵子
亘由秀　くちなしの白なほ白く家裁前　加龍恵子
梅雨晴れ間木蔭やさしき深呼吸　加龍恵子
紫陽花や雨粒載せてきらめきぬ　加龍恵子
博　同窓会ドローン見上げて生ビール　加龍恵子

博恵秀　全壊の家にも花咲く立葵　佐藤茂弘
青葉ある我が家が見えてほっとする　佐藤茂弘
博恵　じゅんさいの汁味わいて母想ふ　佐藤茂弘
草茂る少し傾斜地野営地に　佐藤茂弘
青葦が水を清める琵琶ノ湖（うみ）　佐藤茂弘

秀　ががんぼの危ふきまでに蹌踉（よろ）めけり　中野亘子

由　どくだみの白を誇りて庭に満つ　中野亘子

秀　風鐸は風に任せて古刹なり　中野亘子

由恵　ジューンドロップといふ言葉あり耳澄ます　中野亘子

老鶯の囀（さえず）り真近受話器置く　中野亘子

福志恵　朝堀りの筍白い尻並べ　前田秀一

田植え機や水面青空緑挿す　前田秀一

梅雨雲や哀れ青幕能登被災　前田秀一

福博　下校列傘の黙々梅雨の入り　前田秀一

中空に満月美貌梅雨晴れ間　前田秀一

【選句についてお願い】

一、お一人五句選句して頂き、その「句番号」をお寄せください。

二、選句の内「特選句」一句の番号の後ろに「特選」と記入して下さい。

三、「特選句」について、五〇文字以内で句評をお願いします。

投句、選句者氏名　（　）内は選句者略号（五十音順）

網　佑子（佑）、岩崎悦子（岩）、加龍惠子（恵）楠野圭子（圭）、佐藤茂弘（茂）、戸堂博之（博）
中野亘子（亘）、西村敏治（敏）、野本展子（展）、藤井光正（光）、前田秀一（秀）、三木徳彦（徳）
都　福仁（福）、元永悦子（元）、山家由紀（由）、吉澤志保子（志）、吉田以登（以）

編集人　前田秀一